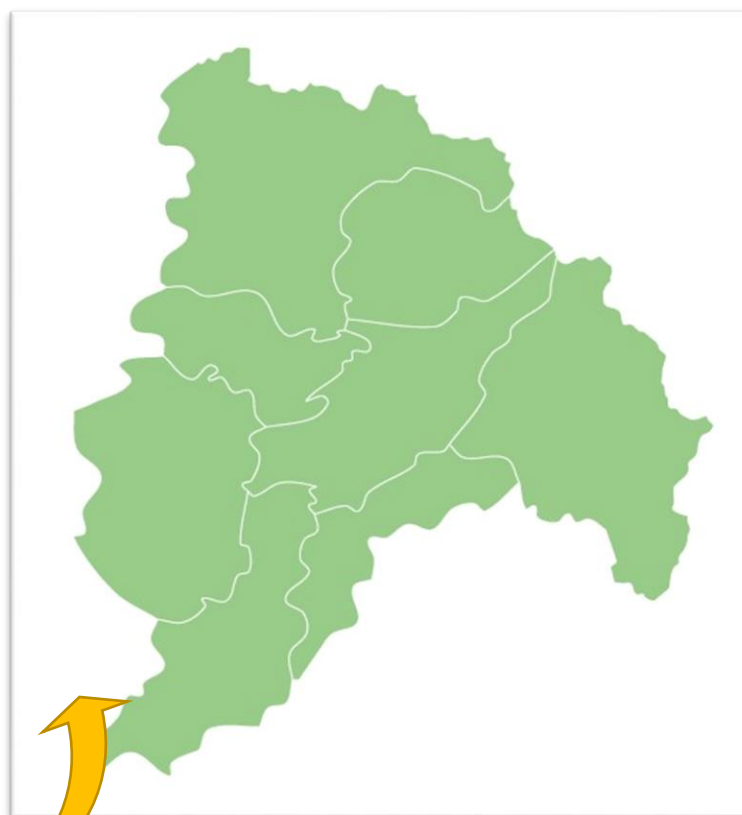


令和7年度
基盤共通教育集中講義

フィールドラーニング ー共生の森もがみ プログラム案内

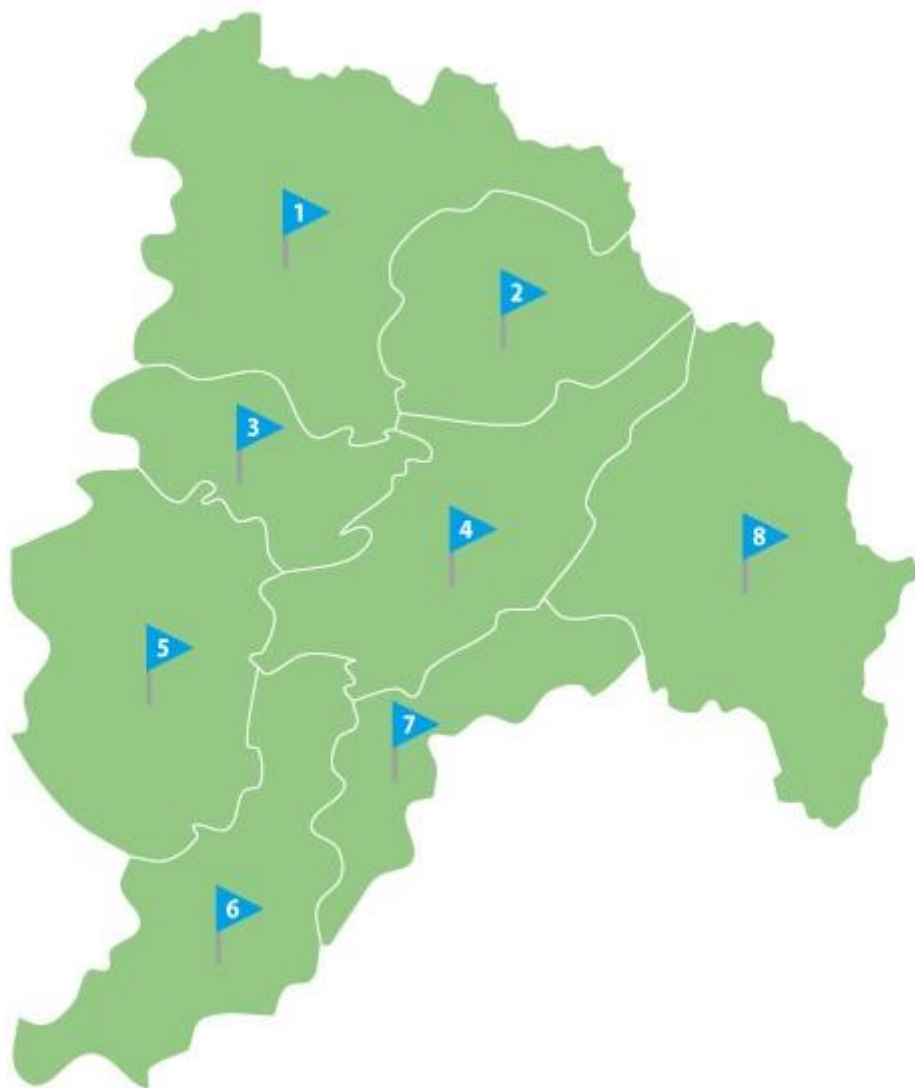


Q 最上広域圏8市町村の場所と名前を当ててみよう
→答えは表紙の裏へ！

エリアキャンパスもがみマスコット ヤム YAM君



最上広域圏の場所と名前みんな覚えてね！！



1. 真室川町
2. 金山町
3. 鮭川村
4. 新庄市
5. 戸沢村
6. 大蔵村
7. 舟形町
8. 最上町

目 次

◇授業計画（シラバス）	2
①新庄市	4
②金山町	6
③最上町	8
④舟形町	10
⑤真室川町	12
⑥大蔵村	14
⑦鮭川村	16
⑧戸沢村	18

授 業 計 画 (シ ラ バ ス)

■授業科目名： 前期・・・フィールドラーニングー共生の森もがみ（山形から考える）

■担当教員：阿部宇洋、橋爪孝夫、菊田尚人 ■担当教員の所属：学士課程基盤教育院、地域教育文化学部

■開講学年：1年、2年、3年、4年 ■開講時期：前期 ■単位数：2単位 ■開講形態：講義

～・・・授業概要～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・

◎テーマ

自然豊かな山形県最上地域でのフィールドラーニングを通して、地域の文化や歴史、自然、環境等だけでなく、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと共に学び、実践的な視点から知識を獲得し、山形から日本、世界及び過去から、現在、未来の空間及び時間軸で現象を把握する力を養う。

◎到達目標

この講義を履修した学生は、

- 1) 地域から与えられた課題を発見できる。【知識・理解】
- 2) 地域で発見した課題を探究することができる。【知識・理解】
- 3) 課題を議論することで、コミュニケーションできる。【態度・習慣】
- 4) プレゼンテーションを行うことができる。【技能】
- 5) 行動力、社会性の基礎的な力を身につけることができる。【態度・習慣】

◎キーワード

山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル、学生主体型授業

～・・・授業計画～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・

◎授業の方法

この授業は、各自が以下のプログラム（①～⑧）から1つを選択して受講する。受講の流れは以下のとおり。

- 1) オリエンテーション
- 2) 事前学習（WebClass）
- 3) 【1泊2日フィールドラーニング（1回目）】
- 4) 中間学習（WebClass）
- 5) 【1泊2日フィールドラーニング（2回目）】
- 6) 最終レポート（WebClass）
- 7) 活動報告会に向けた説明会・練習、活動報告ポスター作成
- 8) 活動報告会での発表

前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①地域課題は宝？「空き家」を通して暮らしを見つめ直すプログラム	新庄市	6月14日・15日	6月21日・22日
②お土産開発！ 金山産落花生PRプロジェクト！	金山町	5月10日・11日	6月7日・8日
③最上町の木で作った楽器の魅力を世界に広めたい	最上町	6月14日・15日	6月28日・29日
④里地里山の再生Ⅰ	舟形町	5月17日・18日	5月24日・25日
⑤子どもの自然体験支援講座	真室川町	6月7日・8日	6月28日・29日
⑥知られざる大蔵村の歴史と文化、郷土の食を求めて	大蔵村	5月24日・25日	5月31日・6月1日
⑦鮭川歌舞伎 地域の伝統文化の未来について考える	鮭川村	5月24日・25日	6月7日・8日
⑧里山の資源を活かそう	戸沢村	6月7日・8日	6月28日・29日

～・・・授業計画～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・～・・・

① プログラム説明会（各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査）

4月7日（月）～4月10日（木）23：59

WebClass で実施します

※4月10日（木）16：30～ 122教室にて説明会を行います。興味のある方は参加してみてください。

② 抽選,当選者発表

4月11日（金）15：00

掲示板・WebClass で発表します

③ 履修登録

4月11日（金）～4月14日（月）17：00

学務情報システムで各自履修登録

④ オリエンテーション（班顔合わせ、役割決め、フィールドラーニングの心構えについて）

4月18日（金）16：30～18：00

基盤1号館 122教室

⑤ プログラム毎にフィールドラーニング活動期間（土日2回、計4日間）、報告練習2回

5月10日（土）～7月6日（日）

⑥ 活動報告会

7月25日（金）16：30～18：00

基盤2号館 222教室

学習の方法

◎受講のあり方

- 1) 安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。
 - 2) 専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドラーニング（あるく・みる・きく）で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。「現場で考える」「体で考える」（もちろん頭も使います）ことが合言葉！そして、自分の想像力を大事にしてください。
- ・学部の行事や、サークル活動（大会）と予定がバッティングしないように気をつけてください。必ず確認すること。
 - ・メールでのお知らせや掲示板での情報がありますので、必ず確認してください。

◎授業時間外学習へのアドバイス

- 1) オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。
- 2) オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習、②中間学習、③最終レポートに取り組んでください。また、フィールドラーニング中はこまめに記録ノートを作成するよう努めてください。
- 3) フィールドラーニング終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。方法については説明会を開催し、発表指導を2回行います。

成績の評価

◎基準

- 1) 地域での活動により課題を発見し、探求により深め、活動報告会の発表により他者に伝える事が出来たかどうかを評価の基準とする。
- 2) 一連のグループ学習の中でコミュニケーション能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とする。
- 3) 現地講師による活動評価、受講態度や、指示に対する達成度を数値化しそれを参考に教員が相対的に評価を実施する。

◎方法

前提として、現地活動にはすべて参加していること、また最終レポート提出が基本条件。

- フィールドラーニング活動への参加度 40%
- 活動報告会での発表の完成度（ポスター含む） 30%
- 現地講師による活動評価 20%
- 受講生による相互評価 10%

テキスト・参考書

参考書：オリエンテーションで配布する「しおり」を参照するほか、活動中に地域で配布される資料を活用する。

その他

◎学生のみなさんへのメッセージ

フィールドラーニングとは、山形大学オリジナルの学術用語で、学部専門で学ぶであろう、フィールドワークの入門編として設計されました。フィールドワークでは全て、みずからの関心で調査する事に対して、フィールドラーニングとは、提示されたプログラムを通して、課題発見などを行なう教育プログラムになっています。

最上地域は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて（味わって）、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。

この講義をきっかけに、多くの学生が最上地域での課外活動に参加してきました。教員を目指す学生や、地域でのボランティア、地域活動を体験したい学生にはお勧めです。

本授業は宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。（詳細は、プログラム説明会の際に説明します。WebClassにも公開しています。）

◎オフィス・アワー

原則として Webclass のメッセージで常時質問を受付けます。対面のオフィスアワーとして「阿部研究室」（基盤教育1号館2階東側）において、予約制で受け付けます。会議や出張等で不在にすることもあるため、確実に面談したい場合は事前に Webclass のメッセージで予約をお願いします。

3人の教員が担当していますが、基本的には阿部へ連絡をください。

●目的・概要

現代社会には、少子高齢化や過疎化といった大きな「社会課題」が存在しますが、それらは、空き家や後継者不足といった多種多様な「地域課題」が積み重なり、絡み合うことによって発生しています。しかし、それらは本当に負の面しか有しない「課題」でしかないのでしょうか？

本プログラムにおいて主な活動場所となるのは、新庄市万場町にある商店街です。万場町は、江戸時代から「万(よろず)の商店が集まる場所」と言われていました。しかし、現代においては人々の暮らしや社会情勢等が大きく変化し、「空き家」という「地域課題」を抱えている現状にあります。

山形大学の皆さんには、万場町商店街の街並みに触れてもらいながら、空き家という地域課題の原因、そして新たな可能性について考えていただきます。また、本プログラムを通して、自分たちの「暮らし」について再考し、見つめ直す機会として本プログラムを開催します。

<訪問1回目 令和7年6月14日・15日>

◎活動内容

○1日目(6月14日(土))

【午前】・オリエンテーション

・万場町商店街散策

【午後】・ミニ空き家勉強会①

○2日目(6月15日(日))

【午前】・リノベ、DIY ラボに関する話

【午後】・日曜日の町を散策、振り返り

※2回目の訪問時までには、地域の方々へ発表する際の資料形式・方法を考えていただきます。

<訪問2回目 令和7年6月21日・22日>

◎活動内容

○1日目(6月21日(土))

【午前】・前回の振り返り

・万場町商店街、空き家散策

【午後】・ミニ空き家勉強会②

・発表準備

○2日目(6月22日(日))

【午前】・地域の方々へ発表

【午後】・山形大学発表へ向けて学習

・活動についての振り返り



●講師

- ・(一社)最上のくらし舎 吉野 優美 氏
- ・おむすび不動産 小林 純 氏

※加えて当日は地域の方々にも協力を依頼します。

●受講定員（最小開講人数）

6人（3人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 1,130円＋シーツ代 220円
＋交通費 2,340円（往復）＋ α （食事代）

訪問2回目 宿泊料 1,130円＋シーツ代 220円
＋交通費 2,340円（往復）＋ α （食事代）

合計 7,380円＋ α

※個人ごと必要な分、昼食は市内飲食店等を利用、夕食はスーパー等を利用。（山屋セミナーハウス調理室も使用可能です。）

※キャンセル料は無し

昨年度新庄市プログラム受講生の感想-----

今回のフィールドラーニングでは手間のかかる山、小さな商店街、古ぼけた祠など一般には「町の問題」として捉えられるものでも決して悪い点ばかりではないことを知った。「だからこそ」の強み、共に解決する為自然に会話が生まれ住民主体でアクションを起こせる力がある。

商店街の方の何気ない話の中に大学生の私にとっては新鮮な昔の話、知恵が沢山詰め込まれており学びが多かった。今の私にできることは、話や行事に「参加」し混ざる挑戦をし、その街を「知る」ことだ。（Mさん）



フィールドラーニングを行うなかでたくさんの万場町の方々に声をかけていただいたり、協力していただいたりした。しかしその中で気付いたことは若い世代の方々と出会わなかったことだ。

新庄市のスーパーに行ったときは小さな子どもや若い家族が多くいたのにも関わらず、万場町では出会わなかった。よって私は市内市外関わらず万場町に若い人を呼び込む必要があると考えた。人が少ないことは良い面もあるが若い人がいないと町自体がなくなってしまう。

この授業を通して地域課題は視点を変えたら魅力的で地域を盛り上げるチャンスだと分かった。だからこそこの地域課題を若い人にとって住みやすく魅力のあるものにするものにし、逆にチャンスにしなければならい考える。地域課題は万場町だけでなく全国に存在する。だからこそ県や市だけでなく国全体で考えていくべき問題だとこの授業を通して改めて感じた。（Iさん）



山形大学の皆さんが地域を取り巻く様々な「課題」に向き合い、身近な問題や可能性として思考するとともに、皆さん自身の「暮らし」を見つめ直すきっかけになるようにと、本プログラムを開催いたします。

お土産開発！ 金山産落花生 PR プロジェクト！

●目的・概要

平成 30 年度より産地化を目指し「落花生」の栽培を行っています。現在、栽培だけでなく金山産落花生の素焼きやペースト等のお土産品ができました。今回、金山町ならではの特色ある新たなお土産を開発を目指し、金山産落花生の PR を行うプロジェクトです。

また、ただお土産品を開発するだけでなく、落花生の種蒔きも体験、最終日に向け実際にお土産品を作り、イベント会場にて試食会を実施します。

※事前学習にて、金山産落花生（ピーナッツ）を調べて来てください。HP や YouTube 等で金山産落花生を使用したレシピも公開されていますので、そちらもご覧いただければと思います。

可能であれば、「山形のうまいものファインフードコンテスト」に応募できればと考えています。

<訪問1回目 令和7年5月10日・11日>

◎活動内容

1 日目

09:51 新庄駅着
10:30 金山町到着
金山産落花生 & 落花生商品の加工について
12:00 昼食
13:00 お土産品開発（レシピ検討）
16:00 終了

2 日目

08:45 ホテル出発
09:00 落花生の種まき体験
12:00 昼食（落花生ごはん）
13:00 お土産品開発（レシピ検討）
15:20 金山町出発
16:00 新庄駅解散

<訪問2回目 令和7年6月7日・8日>

◎活動内容

1 日目

09:51 新庄駅着
10:30 金山町着
お土産品意見交換
調理
12:00 昼休憩
13:00 試食会準備（ポップ等）
16:00 終了

2 日目

08:00 ホテル出発
試食会・イベント準備
13:00 試食会終了
昼休憩
14:30 意見集約・レシピ修正
15:20 金山町出発
16:00 新庄駅解散

●講師

- ・金山町新産地開発協議会
- ・農事組合法人いずえむ
- ・金山町教育委員会 等を予定

●受講定員（最小開講人数）

8人（4人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 1日目昼食代 1,000円＋宿泊料 7,000円（補助後）＋2日目昼食代 500円程度＋交通費 2,340円（往復）＋ α （食事代）

訪問2回目 宿泊料 7,000円（補助後）＋2日目昼食代 1,000円程度＋交通費 2,340円（往復）＋ α （食事代）

*宿泊代は、1回目・2回目ともいったん全額（12,000円）を自己負担いただき、後日、1泊あたり5,000円の町補助があります。

*その他、お土産品開発のための材料費として、2,000円/人程度

合計 23,180円＋ α

昨年度金山町プログラム受講生の感想-----

現在私たちは、地域の昔ながらのなりわいを新しい形に再構築し、次の世代に継承していく必要があります。なぜなら、体験を通して、昔ながらのなりわいには、優しさ、温かさ、感謝の心、おもてなし精神が詰まっていて、それらのなりわいには豊かな心を育む素晴らしさがあるということを実感したからです。たとえ形が変わったとしても、失うことなく、未来に残していきたい、そんな町のなりわいが今、各地で消滅の危機に瀕しています。地域の資源を活かし、若い世代の私たちのアイデアでワクワクするものに育て上げて、この衰退をとめ、次の世代にも残していきたいのです。私たちは今、昔ながらのなりわいを進化させ、未来に継承していく段階にあると考えます。（Sさん）



本プログラムは「なりわい体験」であるので、街並み案内や新規事業の仕事体験など様々取り組んできた。体験をしていくうちにその事業の素晴らしさがわかると同時に、関わった方全員が外部の人に対してあたたかさを持っていると感じた。そのあたたかさを金山町に訪れた人にはぜひ体感してもらいたいと思う。（Kさん）

金山産落花生をPRできる新たなお土産品を開発しましょう！
最終日には町のイベントで試食会ですので、イベントも楽しみながら、活動しましょう！



●目的・概要

- 最上町では、町内の間伐材を利用した楽器の製作と児童等への演奏指導を通した音楽活動を推進に取り組んでいる。手作り楽器（創作弦楽器）の製作と演奏を手掛ける講師をお招きし、平成28年度より本格的に小学校の児童への指導や町内の愛好者の育成にあたっている。令和4年度には、残念ながら枯死した日本一の大アカマツ伐採材を活用した楽器も含め、アカマツで奏でる音楽会を開催している。
- 町としては、演奏活動を行う愛好家のサークルとして誕生した「森の楽器の会」と協働で、講師の指導を仰ぎ、①「森から生まれた楽器」を町の子どもと大人が楽しむ場所をつくる。②その楽しみ方を発信して、町外、国外で同じように楽しむ人を増やしていく。③最上町を拠点として、町外、国外との交流を促進する。この3つを基軸に活動を徐々に進めていくという方向性を掲げている。
- その一環として、フィールドラーニングにおいて、学生には、実際に楽器に触れ、演奏を楽しんでもらいながら、それぞれが感じたことやこの活動の新たな可能性、楽器の楽しみ方や楽しむ場所づくりなどを、町に提言・提案してもらいたいと考えている。既成の楽器の演奏経験がなくても心配なく、初心者でも楽器演奏を楽しむことができます。そこから豊かな感性で、木の楽器の魅力を体感できます。

<訪問1回目 令和7年6月14日・15日>

◎活動内容

- オリエンテーション
 - 木の楽器演奏&合奏体験Ⅰ
(スキルレベルに応じて)
 - 最上町探訪ⅠⅡ
 - 演奏を通しての課題探究
(演奏発表と魅力の掘り下げ)
- ※詳しくはプログラム実施概要にて提示

<訪問2回目 令和7年6月28日・29日>

◎活動内容

- オリエンテーション
 - 木の楽器演奏&合奏体験Ⅱ
(スキルレベルに応じて)
 - 木の楽器演奏サークルとの交流
 - 最上町探訪Ⅲ
 - 演奏を通しての課題探究
(魅力の発信、政策・提案づくり作業)
- ※詳しくはプログラム実施概要にて提示

●講師

「木と音の会」 代表 泉谷 貴彦 氏
木の楽器演奏サークル「ベルフォレ」

●受講定員（最小開講人数）

8～12人（6人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

- 訪問1回目 宿泊料 7,500 円＋講師謝金 1,000 円＋交通費 2,340 円（往復）
- 訪問2回目 宿泊料 7,500 円＋講師謝金 1,000 円＋交通費 2,340 円（往復）

合計 21,680 円

*宿泊料には、夕食・朝食、入湯税を含む。また、3日前以後のキャンセルは3,000円がかかります。

昨年度最上町プログラム受講生の感想-----

フィールドワーク全体を通して、普段の学習では感じることをできないことを多く経験することができました。人との関わり方や自分自身との向き合い方、そして誰かと共通の目標に向かって動くことの難しさと楽しさを、今まで以上に認識することができたと感じています。お世話になった講師の方々、そしてともに活動した班の人たち、本当にありがとうございました。(Kさん)



フィールドラーニングを通じて演奏する上で大切なことを学び、最上町は歴史ある観光資源に恵まれ自然豊かであることを知り、最上の楽器の魅力は大アカマツからできていることだけではなく、その上品で温かみのある音色や型がなく初心者でも気軽に演奏できることにもあると感じた。主に音楽に興味がある人の間で最上の楽器が徐々に広まること、最上の観光資源をきっかけに最上の楽器の魅力を知る人や最上の楽器をきっかけに最上のさらなる魅力を知る人が増えることを願っている。(Mさん)



私はこのフィールドラーニングで様々なことを実感をもって学んだ。最も心を惹かれたのは、最上ハープをとりまく大アカマツと地元の人の物語である。最上ハープの美しさに人々が共鳴し、集っていくことに大きな感動を得た。私自身も、自然と人が集ってくるような、真に価値あるものをもつ人間になりたいと強く思う。(Mさん)

私はフィールドラーニングで失敗を恐れず、挑戦することの大切さを学んだ。フィールドラーニングでは主に艶やかな音色を奏でる楽器を演奏したり、最上町の美しい自然を感じることが出来る観光場所を訪れたりした。最上町で訪れた封人の家や大赤松の跡地などは歴史的背景も多く存在し、町人との物理的だけでなく精神的な強い関わりやつながりを感じた。(Oさん)



演奏のスキルアップが目的ではないので、音楽や楽器の演奏経験がなくても全く心配はいりません。楽器の構造はシンプルで、極々簡単に演奏を楽しむことができます。町が進める音楽文化の普及発展、そして発信に、あなたの斬新な魅力的なアイデアやマインドを提供いただければと考えています。おまけに、小国川沿いの瀬見温泉の秘湯っぽいレトロな温泉宿も魅力です。

●目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

○地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）

○食と農の体験活動

<訪問1回目 令和7年5月17日・18日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

<訪問2回目 令和7年5月24日・25日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

●講師

堀内ファーム 大山 邦博、伊藤 千代喜

●受講定員（最小開講人数）

10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代 6,000円程度
+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代 6,000円程度
+交通費 1,980円（往復）

合計 15,960円



昨年度舟形町プログラム受講生の感想-----

フィールドラーニングを行う中で、過疎・人材不足・高齢化といった問題は舟形だけでなく日本全体にも広げて考えることが出来ると感じた。その中で最上独自の課題を見つけるのは難しく感じたが、地域の魅力が子ども達や地域外の人に伝わっていないことではないかと班員の中で意見が出て、その意見に共感した。魅力を伝えるためには、単なる情報発信では不十分で、体験を伴うものが良いと考えた。文章や図表、写真から得られる情報には限度があると今回の体験で体感したからだ。

普段自分が食べている野菜は農家の方々が作ったものであるが、それを意識し、どのように作られているか考えることは今まで無かった。お店で売られている完成した食べ物を見ることがほとんどだったため、畑づくりや定植、肥料といった工夫を見て、農作物について学習することが出来た。これは体験でないと得られなかったと思う。(Kさん)



私は舟形町での二回のフィールドラーニングで、キュウリの定植活動を行いました。結果として960本のキュウリ苗の定植ができました。商品として出荷する大規模なその量に驚きました。また、連作障害を防ぐためにカボチャなどの苗と接ぎ木をする、液肥と肥料を使い分けて収量を増やすための努力をしていることなど、沢山のことが分かりました。今回は防風ネットをかけ、誘引ネットを張り、苗を植えて、誘引棒をネットに引っ掛けるなどの体験をさせていただきました。その一連の行動にも細やかな配慮が必要で、自然に左右されながら「生命」を生み出すことの大変さを知りました。(Sさん)

私は今回の活動を通じて、舟形町の地理、歴史、現在の取り組みなど見聞きしたことで、農業により一層興味を持った。また、農業にはその土地の事情が大きく反映されていること、農業は自分が考えていたよりも機械化が進み負担が軽減されていることを知った。この経験をほかの人にもしてもらいたい機会があれば、舟形町の農業を知る人、興味を持つ人が増えると考えた。(Mさん)



農業体験を通して、将来、社会で役立つスキルを身に付けることができます。
参加者には、団体が生産したお米(はえぬき)をプレゼントします。

●目的

子どもの自然体験活動の支援に携わることで、自然体験活動の意義や、より効果的な支援のあり方について考え、現代の子どもたちが抱える課題の解決を模索する。

●概要

<1回目>

1日目：①「めんごキャンプ」「わんぱく探検隊」に関わるプログラムを体験し、支援のあり方についてシミュレーションを行う。

②現代の子どもの課題と、自然体験活動の意義について考察する。

2日目：幼児・低学年対象「めんごキャンプ」のスタッフとして子どもの体験活動支援を実践する。

<2回目>

1回目の経験をもとに、小3・4年対象「わんぱく探検隊」のスタッフとして子どもの体験活動支援を実践する。

<訪問1回目 令和7年6月7日・8日>

◎活動内容

1日目

・オリエンテーション、ワークショップ

①真室川町の紹介

②ワークショップ

「自然体験・学び・支援」

③自然体験実習（野外炊飯、テント設営 など）

④テント泊

2日目

企画事業「めんごキャンプ」活動支援

・幼児～小学2年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

（野遊び、調理体験、トレッキング など）

<訪問2回目 令和7年6月28日・29日>

◎活動内容

企画事業「わんぱく探検隊」活動支援

・小学3・4年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

（野遊び、調理体験、野外泊、トレッキング など）

・フィールドラーニングのふりかえりと共有

●講師

- ・山形県神室少年自然の家職員
- ・真室川町教育委員会職員

●受講定員（最小開講人数） 15人（5人）

●費用の目安 ※変更となる可能性があります。

4,500円（飲食料費3,200円程度、活動費300円程度、傷害保険代200円、宿泊費等800円程度）×2回+交通費2,340円（往復）×2回

合計 13,680円

※個人のキャンセルについて

1回目は5月31日（土）の正午まで、2回目は6月21日（土）の正午までに連絡をいただいた場合は、キャンセル料は発生しません。それ以降については、飲食料費分、活動費分の金額を請求いたします。

※講座自体のキャンセルについて

実施3週間前を過ぎてから、講座自体が中止になった場合は、キャンセル料が発生する場合があります。その場合は、詳細を後日連絡します。（自然災害で事業が実施できないなど、神室側が受け入れ不可の判断をした場合…キャンセル料なし、大学側が実施不可の判断をした場合…キャンセル料あり のように、状況や事情により変化します。）

昨年度真室川町プログラム受講生の感想-----

2度のフィールドワークを通じて、子供たちが自ら体験したいという気持ちを大切に、子供たちの好奇心を尊重することが大切だと感じた。子供たちの成長過程で自然体験は子供たちの好奇心をはぐくみ、五感を刺激して、感受性が豊かになる影響を与えると考えた。また、今回の活動を通じて子供たちが自分で自分の身の回りのことができる力や問題を解決する力が養えたと考えた。このように自然体験によって身につく能力はたくさんあり、子供たちの成長にも役立つため、もっと多くの子供たちが自然体験をする機会が設けられればいいなと感じた。(Mさん)



私は、フィールドラーニングを通して、自然と触れ合う体験活動が私たちに良い刺激を与えてくれることを再確認した。今回の活動で行った非日常的な経験の数々は、私たちの五感を研ぎ澄まさせ、知見を広げ、そして必ず今後の糧となるものばかりであった。また、今回の活動では、自身が体験活動をするだけでなく、自然と接する子どもたちの様子を間近で見られたことで、より一層体験活動の有意義性を感じ取れることが出来た。(Tさん)



私は真室川町での活動を通して、子供の自然体験を支援する機会が与えられた。現代における子供は以前に比べて自然とふれあうことが少なくなっていることが明白かつ問題視されており、そのことを踏まえて私はそんな子供の自然体験への主体性を欠かさないことを主に、体験を支援することを考えた。子供の状況や年齢によってこちらの対応の仕方も異なり、特に主体性を奪わないことを考慮しながら子供の行動について指摘や注意することの難しさを感じることができた。

このことを念頭に置いて子供の活動を支援し、自然体験の大切さを伝えることが重要だと考える。(Tさん)

2回のフィールドラーニングを通して、子供たちの好奇心の強さを感じた。いろんなことに対して、「自分がやる！」と言ってくれた。自然体験は普段の生活ではあまりできないものだから、その好奇心を大切にたくさんの方に挑戦できる環境が増えたらいいなと思った。(Kさん)



真室川町の講座は、真室川町教育委員会と山形県神室少年自然の家が連携して行います。プログラム面では自然の家が主体となって運営し、真室川町教育委員会は学生の送迎などの面でのサポートを行います。

講座の内容は「子どもの自然体験活動支援について考える」というものです。子どもたちに自然体験活動を行わせる際に必要なことを考察したり、子どもたちの体験活動支援を実践したりします。

現代の子どもたちが抱える課題をふまえた上で、自然体験活動を行う意義や、よりよい支援のあり方等について考えるきっかけになることを目指しています。

神室少年自然の家での自然体験活動を通して、いきいきと活動しながら変容していく子どもの姿を目にすることで、いきいきと学び成長する子どもの姿を実感することができる講座になっています。

●目的・概要

大蔵村の人々は、歴史・文化・産業といった地域の伝統を共有することによって、共同体としての意識・誇りをもって暮らしてきました。近年は、少子高齢化とともに、世間の多様化の波が大蔵村にも押し寄せています。働き方・生活様式・人との関わり方などが変化し、伝統を受け継ぎ大蔵村を活気ある村として維持していくため、地域の人々は様々な取り組みを行っています。村の取り組みの工夫と苦悩、課題について体験を通して学び、考えることがこのプログラムの目的です。

温泉・食・工芸・農業・芸能を肌で感じ、実際に体験し、楽しみ、大蔵村を全身で学べるプログラムとなっております。

具体的には、以下の取り組みを中心に学び考えます。

- 四ヶ村の棚田 ○食文化の保存活動「笹巻作り」 ○若者グループの産業・地域活性化活動「トマト」
- 大蔵村の6次産業「大蔵わさび」 ○伝統芸能「合海田植え踊り」保存活動
- 肘折温泉の歴史と文化の継承 ○肘折温泉「現代版湯治スタイル」

<訪問1回目 令和7年5月24日・25日>

◎活動内容

肘折温泉の伝統と歴史を学ぶ

- ・散策：肘折温泉街
- ・見学：「肘折こけし」制作
- ・体験：こけしストラップ作り

四ヶ村の棚田保存活動

- ・体験：田植え
- ・講義：四ヶ村棚田保存活動

合海田植え踊りの保存活動

- ・体験：伝統芸能「合海田植え踊り」

肘折温泉の湯治を体験

- ・体験：肘折の湯治 「温泉入浴」

<訪問2回目 令和7年5月31日・6月1日>

◎活動内容

◎若者グループの産業・地域活性化

- ・対談：大蔵村若者グループ「メンズ農業」
- ・体験：大蔵トマトハウス栽培

◎大蔵村の6次産業について

- ・体験：大蔵わさび加工体験

◎食文化の保存活動

- ・体験：笹巻作り

◎合海田植え踊りの保存活動

- ・見学：伝統芸能「合海田植え踊り」

●講師 地域住民の方々

●受講定員（最小開講人数） 10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代 10,000円+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代 6,000円+交通費 1,980円（往復）

合計 19,960円

*キャンセル料（1回目のみ）：3日前から 1,700円、前日 3,250円、当日全額

昨年度大蔵村プログラム受講生の感想-----



今回のフィールドラーニングを通して、どの文化、伝統、食に関しても共通する点としては、人手不足、後継者不足であった。私の地域も地方であるため人手不足は感じていて、大蔵村だけの問題ではないと改めて感じた。この問題を解決するには、SNSなどを用いた情報発信による魅力の伝達が必要だと感じた。大蔵村に行くまでは、ワサビがあるというイメージしかなくほかのものが思いつかなかったが、実際に訪れると、肘折温泉街や棚田、合海田植え踊りなど多くの楽しめるものがあり、知るきっかけがないとわからない魅力が多くあった。知ろうとするにはきっかけが必要で、知ったうえで

体験をすれば魅力が伝わると思うので、ふるさと納税などを用いて、多くの人に知ってもらう機会を増やすのが人手や後継者を増やすことにつながると感じた。大蔵村にはおいしい食べ物、面白い歴史が多くあることを、たくさんの人に知ってほしいと感じた。(Wさん)

私は、今回のフィールドラーニングを通して山形の新しい魅力を再発見することが出来たと思います。19年間山形に過ごしてきて、最上地方に行くことがほとんどなく、山形県民でも最上地域の大蔵村という所があまり分かりませんでした。でも、フィールドラーニングで様々な経験をしたことで、山形にはこんなにも素敵なおところがある！ということがわかり、更に山形が大好きになりました。(Sさん)



このフィールドワークで、問題解決を試みる時には現地に出向くことが重要であることを学びました。ほかにも大蔵村の魅力を知れたこと、班員と仲良くなれたことなど得られたものが多く、良い活動になったと思います。お世話になった方々と班員に感謝しています。(Kさん)

大蔵村フィールドラーニングを通して、大蔵村の歴史や文化、伝統芸能、伝統食、観光、農業について学んだ。それぞれ様々な良さや大蔵村ならではの特徴を生かしたものとなっており、地域の特色について知れた。(Gさん)

大蔵村は全国屈指の豪雪地帯、かつ県内で最も人口が少ない村でありながら、村民の皆さんの元気・笑顔は県内随一と思っております。是非、元気な人々と伝統文化、数々の特産品を育てている大蔵村の空気と自然、人の暖かさに触れて下さい。

このプログラムでは、地元で採れた山菜や米、蕎麦をふんだんに使った料理を味わうことが出来ます。夜は秘湯肘折温泉を存分に満喫して頂き、人里離れたノスタルジックな雰囲気を味わっていただきたいと思います。



●目的・概要

『鮭川歌舞伎』はかつて4つの地区に伝えられ、祭りなどで披露することにより継承されていましたが、時代の流れとともに各地区での活動は衰退してしまいました。

「わが村の伝統芝居をなんとしても続けていきたい」この思いから昭和46年に「鮭川歌舞伎保存会」が結成され、現在に至るまで伝承活動に取り組んでいます。

このプログラムでは、定期公演の準備や運営等の体験をととして、鮭川歌舞伎の今後の継承や保存・活用についてのアイデアを考えてもらいます。



●講師

鮭川歌舞伎保存会 会長 佐藤 成一 氏
座長 高橋 真一 氏

●受講定員（最小開講人数）

5人（3人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

宿泊料（2回分）16,500円＋昼食代3,150円（4日分）
＋交通費4,680円（往復2回分）＋α（飲み物代等）

合計 24,330円＋α（飲み物代等）

*キャンセル料：当日・無連絡は100%、前日より前は要相談

<訪問1回目 令和7年5月24日・25日>

◎活動内容

鮭川歌舞伎についての説明

鮭川歌舞伎定期公演準備

村内神社、文化財の見学 等

<訪問2回目 令和7年6月7日・8日>

◎活動内容

鮭川歌舞伎定期公演準備、運営、見学 等

昨年度鮭川村プログラム受講生の感想-----

村の伝統芸能と聞くと過疎化によって担い手が著しく不足しているものだと思っていたが、実際に村に足を運んでみると、その伝統は衰えず保たれ、村民の熱意によって今も活発に演じられ続けていることが分かり、考えを改めた。定期公演によって鮭川歌舞伎を村の人々にとって身近な存在にしたり、子ども歌舞伎の育成によって若い担い手を確保したりする取り組みがとても素晴らしいと感じた。鮭川歌舞伎の活気を保たせている要因として他に挙げられることがないか、さらに考察を深めていきたい。(Oさん)



2回のフィールドラーニングを通して、伝統文化と地域の関わりについて深く考えることができた。伝統文化を担う主体は地域の人々だが、人口減少が進み、より伝統文化の存続が厳しくなっている地域が多いだろう。担い手だけでなく、裏方から支える人員も足りなくなることが予想される。鮭川歌舞伎を支えているのは、保存会だけではなく、地域内外の人々である。人々の伝統文化への関心を高めることは、後世へ伝えていくための最も重要なことだ。伝統文化をその地域だけではなく、外へと発信す

ることが伝統文化を後世へとつなげてゆく道であると考えた。加えて、地域活性化には何か一つの地域の核となりうるものが必要だと思う。核とは他の地域にないもの、他の地域に自慢できるものであり、伝統文化は核になりうる。このような核を育て受け継ぐことによって過疎地域を救うことができるのではないだろうか。(Tさん)



今回のフィールドワークを通し、地域に根付く伝統文化に触れ、さらには舞台に出演することができ、非常に貴重な体験だったと思う。(Sさん)



古くから存在してきた芸能を継承していくことは、文化財としてだけではなく、地域の特性を残していくということにも繋がります。伝統文化に興味がある方は参加してみてもいいでしょうか。

●目的・概要

当地域は四方を山々に囲まれた地域です。この山々・里山には様々な資源（水田・畑・山菜・きのこ・樹木・自然景観・歴史遺産など）が眠っています。この資源を有効に活かすことが、地域経済立て直しに必要です。今回のプログラムでは、①転作田で生産された「そば」を使った蕎麦打ち体験②山菜採りやそれを使った料理作り③里山から採った材料を使った「木エクラフト」④杉林の管理「間伐」⑤収穫された木材の利用状況視察（新庄市福田山工業団地内工場）。以上のプログラムを通じて、『地域資源をどう活かすか』を考察してもらいたい。

<訪問1回目 令和7年6月7日・8日>

◎活動内容

（第1日目）

午前はオリエンテーション、そば打ち。
午後は山菜とり。

（第2日目）

午前は山菜料理づくり。
午後は木エクラフト。

<訪問2回目 令和7年6月28日・29日>

◎活動内容

（第1日目）

午前は、杉林の間伐。
午後は近傍の集落内や里山のトレッキング。

（第2日目）

午前是新庄市内でカラ松の苗畑見学。福田山工業団地内で、協和木材・ヤマムラ製材所・もがみバイオマス発電所の見学を行います。

午後は新庄駅「ゆめりあ」内で、「やまがた森林ノミクス」の学習などを行います。最後に振り返りをします。

●講師

田舎体験塾つのかわの里の構成員が努めます。
理事長 安食捷雄

●受講定員（最小開講人数）

14人（10人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊代 6,000円＋諸経費 5,000円＋
交通費 2,340円（往復）

訪問2回目 宿泊代 6,000円＋諸経費 5,000円＋
交通費 2,340円（往復）

合計 26,680円

*キャンセル料は、当日100%、前日50%、3日前30%とします。



昨年度戸沢村プログラム受講生の感想-----

自分が住んでいる地域を大切に思う気持ちが行動を起こすために1番大切な要素なのだと体験できる活動でした。普段食べない食材を使った食事をするのができ、私自身の食を豊かにする活動でした。消滅可能性自治体であり若年女性人口の減少率が県内で一番高い戸沢村ですが、山菜が美味しく市内よりも過ごしやすい気候で観光もできるため、また行きたいと感じました。(Uさん)



私たちは、計4日間戸沢村でフィールドラーニングをし、自然に親しむことの楽しさを知ったり、地域の人の温かさにとくさん触れたりといった経験をするのができた。戸沢村は、高麗館や舟下りなどが主な観光地として既に戸沢村のパンフレットでも挙げられているが、私たちが今回活動の拠点していた角川地域の魅力はまだあまり知られていないと感じた。そのため、角川地域を中心として戸沢村の魅力を世代問わずより多くの人に広めていきたいと考えた。(Yさん)



四日間にわたるフィールドラーニングの活動を通して、私は、新たな商品をゼロから考えて、試作し、実際に一般の方々に食べてもらって意見をいただくという経験を初めてした。オリジナリティのある特産品を作るのは本当に難しかったが、私が戸沢村の自然や人々から刺激をもらったように、私たちのアイデアが少しでも戸沢村にいい刺激を与えられていたらいいなと思う。(Sさん)

今回は戸沢村の新特産物開発という目的で計4日間戸沢村に行ったが、それ以外のことも多く学べた。たまたま同じ授業を取った人と出会い協力し、新特産物を開発したことは最高の時間だった。人と協力して課題を解決していくことはこの授業でしかできないことだと思う。戸沢村と共に作り上げた特産物を商品化してほしいと思う。(Uさん)



地域の課題解決には「若い人の感覚」が必要です。あなたの目を見た事、感じた事から大いなる提案を期待しています。